

青森市匠の職人（平成23年度受賞）

伊藤^{いとう} 健吉^{けんきち}（木製家具製造工）

「何十年と歳月を重ねてより味わい深くなり、
様々な人の思い出と共に生き続けます。」

主な受賞歴

- '84年 全日本中小企業総合見本市入賞。
 - '84年 全国特産物奉獻式奉獻（明治神宮）
 - '85年 青森県新作木工品展示会入賞
- 問い合わせ先 青森ひば民芸家具（伊藤木工所）
〒030-0955
青森市駒込字見吉 148-1
TEL/FAX 017-741-1105



伊藤さんが亡くなる直前に完成したちゃぶ台 ほか
（伊藤さんは、受賞決定後の平成23年11月18日に急逝されました。）

【取材レポート】
大家族の末っ子だった伊藤さん。母親から「雪が降る青森でも、年中仕事がある家具屋はどうか」と勧められ、家具職人の道に進みました。中学卒業後、職業訓練所で一年間基礎を学び、市内の木工所に入社。19歳で上京し、当時、百貨店の超一流家具を作っていた製作所の下請け木工所に弟子入りし、一流の家具職人の技と、昔ながらの「職人氣質」を叩き込まれました。
東京から帰り、昭和49年に独立。始めは部屋の内装工事やインテリアの仕事が大半でしたが、ようやく本格的に家具作りが出来るようになった頃、伊藤さんはドイツ・フランスの国際家具見本市から何かを得ようとヨーロッパに渡ります。着色せず、自然材をそのまま生活の中に取り入れ、丈夫で親子三代に渡って使える超一流家具は、伊藤さんに大変なインパクトを与え、地元青森ひばを使った家具作りのイメージが沸きます。
「ひばは必ずしも良い木じゃないんです。長持ちしたり、虫がつかない点は良いけれども、日に焼けやすいし、柔らかいのでキズがつきやすい。でも、日に焼けると落ち着いた色ができて、キズがつくと、そのキズをいつつけたのかと、思い出が残るんです」と、伊藤さんは語ります。
北の厳しい風雪に耐えながらゆっくり年輪を重ね成長した「青森ひば」と、厳しい修行に耐え一流の技を習得した「匠の職人」。技から生まれた作品は、これから何十年と歳月を重ねてより味わいが深くなり、様々な人の思い出と共に、生き続けます。

